

平成 31 年 3 月 1 日(金曜日)の代表質問 名古屋城関係

(名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし)

田口一登議員（共産）：次に、名古屋城天守閣の解体木造化について質問します。

来年度予算には天守閣解体のための仮設構台等の設置工事費が計上されています。

市長は 2 月 1 日、文化庁を訪れ復元の許可に先立って、現天守閣の解体を許可するよう打診したとの報道がありました。その後、私達市議団も文化庁に出向いて天守閣の解体についてレクチャーを受けてきました。

文化庁の担当者は次のように語っていました。

現天守閣を壊すのであれば壊すことについて石垣に影響を与えないということははっきり示される必要がある。はっきり示されるということはどういうことかということ、しっかりと専門的な議論を経た上で問題がないということを示していただく。その専門的なところというのは名古屋市の中には石垣部会がありますよねという話をした。

先日、本市は文化庁から天守閣解体の許可申請の提出にあたっての留意事項を確認しました。この中では、現天守閣の解体除去工事が文化財である石垣等に影響を与えない工法であり、その保存が確実に図られることが求められており、この点について石垣部会の意見を付すこととされています。

現天守閣の解体工事に伴う石垣への影響については、2 月 14 日に開かれた天守閣部会に当局が資料を提出しましたが、ここでは石垣への影響は比較的小さいと考えられるとされていて、影響与えないとは断言されていません。これで、文化庁から解体許可が下りるとは到底思えません。

文化庁から示された留意事項では、石垣等保全の具体的方針も提出が求められています。

この点についても石垣部会の意見を付すこととされていますが、石垣保存の方針については、本市と石垣部会との間で意見の一致を見ていません。

そこで観光文化交流局長にお尋ねします。

現天守閣の解体許可申請にあたって、現状では石垣部会と意見が一致しない石垣保存方針を文化庁に提出せざるを得ませんが、それでも解体の許可が下りると、お考えですか。

市長にもお尋ねします。

市長は解体のみの許可申請を、今年 5 月の文化審議会に間に合わせるといいます。

しかし、天守閣の解体は復元と一体のものではないでしょうか。木造復元は天守台の石垣の保全方針について石垣部会の了承が得られず、文化庁に申請できない事態に陥っています。

市長、復元の見通しも立っていないのに、先に天守閣を壊していいんですか。

市長は耐震性の低い天守閣は震度 6 強で倒壊する可能性があるといいます。だったら耐震改修すればいい。天守閣の耐震性が低いことは 20 年以上前からわかっていたことです。

ですから以前の名古屋城跡全体整備計画では、耐震改修という方針が示されていました。

この方針を覆し耐震性の低い状態を放置しておきながら、それを解体の理由に挙げるのは天に唾するものです。

現在の天守閣は簡単に壊していいものではありません。

名古屋市も文化庁の復元検討委員会に提出するために検討している復元基本構想の中で。

外観は焼失前の天守閣と寸分も違わぬ姿に復元されるなど、当時の建築技術の水準を表すものとしても、現天守閣は評価できる。内部についても、近代建築技術の粋を集めた造作が施され、モダニズム建築としても、文化財としての評価を、こんにち有するものと明記し、現天守閣の価値を高く評価しています。

さらに名古屋城天守は名古屋の街の象徴として戦後復興の象徴として市民の機運の高まりによって再建されたと記されています。

市長は市民の機運の高まりによって再建された象徴を気運が高まらない木造復元のために壊そうとしてるんです。

市長、2022 年末の復元完成に間に合わせたいがために文化財的な価値が高い現天守閣を先行解体するのは、誰が見ても急ぎ過ぎではありませんか。

答弁を求めて第 1 回目の質問を終わります。

河村たかし：それからあの一、現天守閣の解体でございますけど、これはまあ文化庁に行っても言うておりますけど、今変なこと言いますけど文化庁も名古屋の市役所も一番古いの僕なんですけど、これこの名古屋城やっとするの、文化庁も文化庁で二、三年でみんな代わっちゃいますしこれ。どれが名古屋市役所もわしが今は一番古い。

ほんでこの四、五年前を振り返ると、とにかく技術前交渉方式でいきますよといろいろあってねこれ。ほんでそれについて文化庁がどう言ってるかとかいうと、とにかく丁寧に、ことあるごとに丁寧に報告してくださいねということだったんですよ。

ほんでちょっと前の課長さんなんかその竹中さんの案って、すばらしい案ですねって、そう言っとたんですよ、これ。その後それに従って丁寧にやってきとんですね、これ。それをちゃんと頭においてもらわんといかんというふうには言っております。

それからまあ、話にあったようによね本当に地震では危ないですねこれ。Is 値 0.14 というやつは。この間が Is 値 0.13 だったかな中公設、壊しましたがね、大津の赤門通りにある、もうないですよこんな危ない建物は。ということでございますので、まあとにかくそれをほっかといてええという論理はありません、これは。

ほんで早く取り壊して、まあ僕にいわして店や店屋いうかですね。

この間わかったんですけど、趣旨説明でも言いましたけど。

昭和 23 年の地元市の市民のアンケートですね、なんとも木造復元が多かったんですよ望む声は 44.7%です、確か。コンクリートで、ええやれというのは 37%、2 割も低かった、あの当時で。昭和 28 年の名古屋市内の市役所内での会議録.会議録というか文書も出てきました。

それでもそれだれにいったるかいうと、本丸御殿はコンクリートでどうだとか天守はやっぱり本物を作りたいと。そんなことを言ってるんですね当時、名古屋市でも。ということがわかりましてこの木造復元を願う市民の皆さんの声というのは、あの戦後の焼けた途端のときでもですねやっぱ名古屋市民て本物を作りたいかっただけですよこれ。

333年もあった建物をね。国宝1号だったわけですよこれ。

だからそういう気持ちでございまして、今まで丁寧にやってきましたんで、それが変わることはありません。

以上でございまして。

渡辺観光文化交流局長：観光文化交流局に対しまして、現天守閣解体の許可についてお尋ねをいただきました。

文化庁から示された解体の現状を許可。現状変更許可申請に関しての留意事項によりますと石垣等の保全の具体的方針を石垣部会の意見を付して提出することとされております。

天守台石垣保存の方針につきましては、昨年秋に一度取りまとめておまして、その後も有識者やコンサルタントの指導助言をいただきながら調査を行い結果の分析を進めてまいりました。

現時点での天守台石垣保存方針を取りまとめ、石垣部会のご意見を付した上、文化庁に丁寧に説明してまいりたいと考えております。

その上で内容を精査していただきましてご許可いただけるものと考えております。

田口一登議員（共産）：次に、天守閣の解体木造化について再質問します。

市長が天守閣の解体を先行させようとしているのは木造復元については、申請の見通しすら立っていないからです。

文化庁からは復元申請にあたって天守台の石垣の保全方針について石垣部会と認識を一致するよう求められていますが、石垣部会の了承が得られていません。

市の復元計画は木造復元した後に石垣の本格的な修復をするというものですが、石垣部会は石垣の保存について必要な措置をとることが最優先との立場です。

まずは上物の建て替えが先か。土台の石垣保存が先かと。ここに認識が一致しない根源があります。

市長、市の計画と石垣部会の立場に根本的な相違があるもとの、石垣の保全方針について石垣部会の了承が得られる見通しはあるんですか。

お答えください。

河村たかし：まあとにかく災害があった4、5年前位からですね石垣はどうするかちゅう話はあるましてですね。

これだというのはないんです実は。石垣は例えば石一つとってもですね、そこにある程度圧力をかけてどこまでかけると崩れるかとかね、ある1つのブロックのところはそのままにしておいたのがええのか外してやらな、いかんのかということは、これといった物理学みたいなですね、そういうのはありません、これは。

そうそういうことで一定の提案の中でですねやってきて、この間もあるプロに聞きましたけど名古屋城の石垣ほど天守のですね今やっておる、これほど丁寧にあったところはありませんよと言われておりますんで、まあ必ず、ご理解が得られるものというふうに思っております。わしゃこれで。あの、一応文化庁が言っておるのは、文化庁は遅らせるつもりはありませんと、はっきりといっておりますから、これ。それと言っとるのは丁寧だけにやってちょうだいと、なんでかというやっぱり今、戦後の広島城が岡山城とかね、和歌山城だとかたくさんコンクリートで作ったものをどうするかという話が出るわけです。

そん中の第1号が何とか国宝1号であった。一番でっかい名古屋城になった。

まあそこで、次のいろいろリーディングケースみたいになるもので、丁寧にやってくださいよということでやっておりますが、これをやりながら、まあ石垣に最も影響が少ない、これええやり方だと、竹中さんの今の案も聞きましたら、世界でトップでと言っていいかいたらまあまあそこまではわからんけれどもええやり方ですよ言っていました。下に影響を与えない。

まあそういうような必ず喜んでもらえるそんな方式に、が、これで石垣部会も文化庁も、そういう方式をまあ世界中とか日本中に示せると思っております。

そうなるでしょう。

田口一登議員（共産）：まあ市長の願望はよくわかりました。

ただその根拠をですね石垣の保存、石垣本当大事だと大事な石垣そのものが史跡ですからね貴重な。それをどう保存していくのかという方針について石垣部会と名古屋市との間でね、一致しないわけですよ。

これ一致できる見通しがあれば、先に壊してしまうってことじゃなくて、木造復元の復元そのものの申請を5月の文化審議会に間に合うように出すはずだったんでしょ。

それが出せない。それぐらいまだ石垣の問題を巡ってですね、認識が一致しないわけですよ。

そういう中で、先に壊してしまうと、こういうやり方これ本当にね、市民の皆さんからその理解してもらえるのかと、木造復元を望んでいる市民からも先に壊してしまうと復元の見通しもないのに壊してしまうというやり方はとても理解が得られないと私は思います。で今盛んに耐震性の問題、市長おっしゃいますけれども、耐震性云々ということ言えば、耐震改修すべきです。

天守閣の解体は中止し、木造復元は市民の意見を聞いて再検討することを求めます。  
リニア関連開発や天守閣木造化など大型事業よりも福祉暮らし優先へと姿勢の転換を  
求めて、質問を終わります。